

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 85 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成 19 年 4 月 21 日 (土)  
午後 3 時～

場 所 万代シルバーホテル  
5 階 昭和の間

## I. 一 般 演 題

## 1 閉経後骨量減少症患者に対する塩酸ラロキシフェンとエストリオール併用療法の治療効果に関する検討

八幡 哲郎・富田 雅俊・田中 憲一  
新潟大学医歯学総合病院産婦人科

【目的】塩酸ラロキシフェン (RAL) およびエストリオール (E3) はともに閉経後骨粗鬆症の治療薬として使用されている。前者は、E2 製剤と同等の骨量増加作用を有するが、更年期障害に対する効果はなく、ほてりなどの更年期障害様の副作用が報告されている。一方後者は E2 と比較すると骨量増加作用は弱い、更年期障害に対し有用であり、乳腺や子宮内膜への作用が弱いことから安全性の高い薬剤である。本研究では RAL と E3 併用による骨および更年期障害への効果を検討した。

【方法】当科更年期外来を受診した 65 才以下の骨量減少/骨粗鬆症患者 30 名を対象とした。無作為割付けにより RAL 単独群 (60mg/day), E3 単独群 (2mg/day), RAL-E3 併用群の 3 群に分類し、前方視的に 12 ヶ月間の観察を行い、治療前および 6 ヶ月後の腰椎骨密度、尿中 NTX, Kupperman 指数の変化を比較検討した。

【成績】6 ヶ月後の腰椎骨密度の変化率は RAL

単独群, E3 単独群, RAL-E3 併用群でそれぞれ, +0.8%, +0.4%, +1.2%であった。尿中 NTX はそれぞれ 15.3, 9.8, 20.1 nmolBCE/mmolCr 低下した。Kupperman 指数は 6 ヶ月後に平均 +2, -19, -15pts の変化が認められた。E3 単独群では 10 例中 4 例が治療脱落症例となったが, RAL 単独群, RAL-E3 併用群ではそれぞれ 1 例のみであった。

【結論】RAL-E3 併用療法は RAL 単独投与と同等の骨量増加作用を認め, Kupperman 指数の低下が認められた。本治療法は更年期障害を有する閉経後骨量減少/骨粗鬆症患者に対する有用な治療法であると考えられた。

## 2 小児のメタボリックシンドロームと出生体重の関連

菊池 透・長崎 啓祐・樋浦 誠  
田中 幸恵・小川 洋平・内山 聖  
阿部 裕樹\*

新潟大学医学部小児科  
新潟市民病院小児科\*

肥満小学生 (男 261, 女 125 名) を対象に, 出生体重とメタボリックシンドローム (MS) の発症との関連を検討した。対象を出生体重により低, 中, 高体重群の 3 群にわけた。肥満度, 腹囲, 血圧, ALT, LDL-C, HDL-C, TG, IRI, FBG, HbA1c を測定し, 日本肥満学会の診断基準をもとに小児肥満症の判定を行った。また, 小児期メタボリック研究班の暫定基準である腹囲 80cm 以上かつ, 血圧 125/70mmHg 以上, TG  $\geq$  120mg/dl あるいは HDL-C  $<$  40mg/dl, FBG  $\geq$  100mg/dl のうち 2 項目を満たす例を MS と判定した。低体重群の MS の相対危険度は, 他の 2 群に比べ男子 1.9 (1.09 ~ 3.32) 女子 5.1 (1.96 ~ 13.45) であった。また, 低体重群ではインスリン, HOMA-R が高値であった。日本人の肥満小児でも, 出生体重が少ない方が高インスリン血症, MS に進行しやすいことが推測された。小児期からの MS の予防には, 乳幼児期に適切な生活習慣を身につけることの他に, 健全な妊娠出産ができるような学齢